スペイン・ラテンアメリカ通信

第１１号

京都外国語大学外国語学部スペイン語学科編

本誌はスペイン語とスペイン語圏の文化･社会･歴史の専門家が、スペイン語を学ぶ高校生や大学生に向けて発信するアカデミック情報誌です。

スペイン語圏の世界遺産　A～D は世界遺産に指定されているスペインの歴史的建造物です。それぞれの名称は①～④のどれですか？（答えは８頁）

① アルカラ・デ・エナレスの大学と歴史地区
② アラゴンのムデハル様式の建築物
③ バルセロナのサン・パウ病院
④ メリダの考古遺跡群



(A)カタルーニャ州



(B)マドリード州



(C)アラゴン州



(D)エストレマドゥーラ州

変わりつつあるバルセロナ（スペイン）
――住民のための街へ（？）――

海外に住んでいる人たちにとって、母国にいる家族や友人を訪れるのは嬉しい出来事です。私は京都に 28 年も住んでいますが、仕事やプライベートの理由で毎年一回、私の故郷であるバルセロナ（スペイン）に帰ります。家族や友達と時間を過ごしたりしますが、必ずするもう一つのことは、建設中の Sagrada Familia（サグラダ・ファミリア）の様子を見に行ってその成長を記録するために写真を撮ることです（写真1と写真2）。毎年、新しく建設された部分があり、塔も伸びています。そして、相変わらず世界中からの観光客は大勢います。しかし、ここで書きたいのはサグラダ・ファミリアの変化についてではありません。バルセロナの有名な場所や観光スポットでもありません。ここで書きたいのは、住民の生活に大きな影響を与えることが期待されている街づくり政策についてです。



写真 1(左)：サグラダ・ファミリアの北側（2023 年 8 月）
写真 2(右)：サグラダ・ファミリアの南側（2023 年 8 月）

ガウディの建築物（サグラダ・ファミリア、パルク・グエル、カザ・ミラ、カザ・バトリョーなど）、バルセロナサッカーチームのスタジアム、旧市街、美術館や博物館、海岸などを楽しむために世界中から毎年たくさんの観光客がバルセロナを訪れます。2023 年に一年間で観光客は 1200 万人を超えました（バルセロナ市、2024 年 https://ajuntament.barcelona.cat/turisme/sites/default/files/documents/2023_capsula_1_iaotb.pdf）。これは、バルセロナの重要な経済活動になっていますが、その一方で住民は、交通機関が混んでいること、混んでいる道で歩きにくいこと、ゆっくり散歩できる場所が少なくなっていることなどに困っています（写真 3）。バルセロナは住民が住むための街よりも、観光客のための街になっているよくない傾向があります。



写真 3：サグラダ・ファミリア周辺の住宅街に
大勢の観光客が集まっている

さらに、車の移動を容易にするために、バルセロナは幅が広く、真っ直ぐで、水平、垂直な道路で構成されました。その代わり、人々が散歩したり、遊んだりできる公園などは少ないです。その結果、バルセロナは交通量が多く、その騒音と公害も問題になり、住民のための街よりも車のための街のような状況になっています（写真4）。この問題を緩和するために、市は新しい政策を遂行しているところです。これは、「緑軸」（eixos verts：「エシュズ・ベルツ」）という政策です。具体的に、いくつかの通りは、今まで車道だった所を全体的に歩道に作り直すという政策です。その目的は、車の利用や車による公害が減ること、植物が増えること、気温が下がること、そして住民が散歩や交流ができる場所が増えることです。



写真 4：バルセロナの一般的な通り

私は、去年の夏休みにバルセロナを訪れたとき、その対策の現実を初めて見ました。一つの「緑軸」になった通りであるクンセイ・ダ・セン(Consell de Cent)通りを見学しに行きました(写真5、写真6、写真7)。実は、私はバルセロナに住んでいたときこの通りをよく歩きました。家も近く、高校もその通りにあり、祖母の家もその通りにあり、私にとって思い出の多い懐かしい場所です。そして、大きな変化に驚いたと同時に嬉しくなりました。以前、車が走っていたところに、今は多くの植物が植えられ、ベンチが設置され、若者も年寄りもそこで友達と交流し、カフェのテラスでお客がコーヒーを飲みながらのんびりし、さまざまな年齢の人が散歩し、子供たちが遊び、道が静かになり、意外に暑い夏だったのに空気が涼しく、平和的で居心地の良い場所になっていました。このような街で、田舎に住んでいる人たちのように隣人と仲良くしやすく、住みやすく、住民のための街だと思いました。



写真５：クンセイ・ダ・セン通り



写真６：クンセイ・ダ・セン通り



写真７：クンセイ・ダ・セン通り

しかし、懸念すべきこともあると思います。それは、「緑軸」でホテル、カフェ、レストランなどの店がたくさん増えることになれば、この通りも大勢のお客と観光客に占拠され、住みにくい街に変わる恐れがあります。こんなことにならないために、市と市民が協力して住民のための街を守る規制を策定する必要があると思います。

最後に、この記事を読んだみなさんにお聞きしたいことがあります。あなたが住んでいる街は住民にとって住みやすい街ですか。もっと住みやすくなるために何が必要ですか。バルセロナの街づくり政策から学べることがありますか。お互いに学んで、スペインの街も日本の街もより良い場所にすることがきっとできると思います。

Lluís Valls Campà(ユイス・バユス・カンパ／社会学)

スペイン語のことわざ

No hay atajo sin trabajo.

苦労なしの近道はない。

→学問に王道なし

現代スペイン映画にみる日本と日本人(1)

21 世紀の今日のスペインでは、日本社会や文化に対する人々の関心が非常に高まっています。 これは文学だけでなく、現在のスペイン映画にも反映されています。 この記事では日本文化をメインテーマとし、日本、特に東京を舞台とした映画を 2 本紹介します。

最初の作品は 2009 年の“Mapa de los sonidos de Tokio”、直訳すると「東京の音の地図」となります。この映画は 2010 年に《ナイト・トーキョー・デイ》というタイトルで日本で公開されました。タイトルの変更は日本人にとって分かりやすいタイトルだからかもしれません。

もう一つの作品は 2019 年の“Los Japón”という映画です。この“Los”は英語の“The”にあたるので、タイトルの意味は「日本さま」、つまり主人公の名字が“Japón”すなわち日本ということです。日本家の人々と訳してもよいかもしれません。あいにく日本で公開されていません。

まず“Mapa de los sonidos de Tokio”(写真 1) から始めましょう。この映画のジャンルは、サスペンスです。主人公

の名前はリュウといって、演じるのは菊池凛子です。アカデミー賞を獲った《バベル》という映画で役を演じたので、欧米でも知られている女優です。最近はネットフリックスの《トウキョウバイス》という質の良いドラマにも出演しています。主演の男性俳優はスペイン人のセルジ・ロペスで、この俳優はヨーロッパでとても有名な俳優です。この映画は、フランスで毎年開かれるカンヌ国際映画祭コンペティション部門で受賞しています。監督はイザベル・コイシェという女性で、この監督の映画はいずれの作品も特別な芸術的感性が表れています。フランス人はアート映画を高く評価するので、フランスのカンヌで賞を獲ったのも納得できます。とはいえ、制作予算は日本円に換算すると約8億円、日本でのロケのコストは高いのでしょうが、制作費そのものはそんなに高くない映画です。

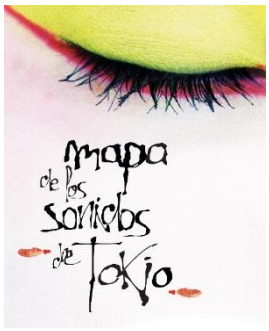


写真１：《ナイト・トーキョー・デイ》のスペイン語でのオリジナルポスター

ストーリーは、日本企業の社長の長柄の娘のミドリが失恋して自殺したことをめぐって展開します。それで長柄がミドリの元恋人のスペイン人のダビを責めます。本当はダビのせいではありませんでした。長柄の部下の石田は、ダビに復讐するために殺し屋を雇います。その殺し屋は菊池凛子が扮するリュウです。彼女がワインの店を経営しているダビに近づくのですが、恋に落ちます。彼女はダビを殺すのが難しくなります。これがあらすじです。

映画のポイントについて説明するなら、まずこの映画のカメラワークが完璧であることです。ストーリーは、サスペンスというジャンルを考慮すれば価値があります。少し問題があるとすれば、それはこの映画に見られる日本に対する固定観念。また、ところどころ東京の観光ガイドであるかのような場面があることです。例えば、殺人者のリュウは人殺しを闇バイトでやっています。でも、昼間は築地場の従業員です（写真 2）。



写真２：東京の築地場

これについてはイザベル・コイシェ監督が次のように説明しています。監督が映画を作る前に初めて東京まで行って築地場の女性従業員の写真を撮ろうとしたのですが、断られたそうです。この経験がリュウというキャラクターを作るきっかけになりました。それにくわえて、この映画はヨーロッパ人にとって日本のエキゾチックな設定になっています。例えば、酔っているダビがカラオケバーへ行って一人で歌っているシーンがあります（写真 3）。ストーリーとは関係なしでリュウが神社にお参りに行ったりします。下北沢のネオンや地下鉄で「女性専用車」のサインもはっきりと映し出されています。こうした日本のイメージをつなぎあわせて監督が監督自身の理想的な東京のイメージを作ったのだと思います。この映画での東京の描写は本当の東京の姿ではないと思います。ただ、映像は芸術性の高さが強調されています。



写真３：東京のカラオケバー

映画のメインテーマは孤独です。混雑したの東京でも、登場人物たちは皆独りぼっちに感じています。リュウの沈黙、ミドリと長柄さんの絶望、石田の復讐願望、ダビでさえも孤独を感じています、この孤独の原因はコミュニケーション不足です。もう

1つのテーマは愛です、様々な種類の愛、親子の愛、愛人への愛、恋人どうしの恋愛、ワイン対する愛も描かれています。友情のテーマも扱っています。友情は映画のナレーターのおじいさんと主人公リュウとの間の友情です。このおじいさんはストーリーで録音技師で、様々な企業のために東京の音を録音しています。さらに、犠牲というテーマもあります。でも、映画をこの記事の読者のみなさんに見てほしいので、これ以上のストーリーは言わないことにします。 [次号に続く]

Daniel Arrieta(ダニエル・アリエタ／比較文学)

あなたの知らないピカソ
～興味深い話を６つ～

パブロ・ピカソ(1881-1973：写真 1)はスペインが生んだ 20 世紀のもっとも有名な芸術家であり、全世界にこれほど影響を与えた芸術家はおそらく他にいないでしょう。ピカソの作品は絵画が特に有名ですが、彫刻、スケッチ、版画、挿絵、陶芸などの作品も残しています。また、何冊かの本も書いています。

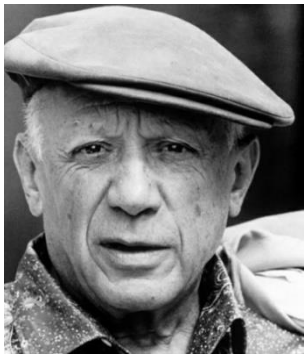


写真 1：1969 年のパブロ・ピカソ

私が勤務している大学のスペイン語学科には「スペイン語圏芸術入門」という科目があり、毎年ピカソの話題に丸一時間を費やすことがあります。私は授業をできるだけ楽しくするために、この画家についていろいろ調べ、誰もが驚くような興味深い話をたくさん集めました。さて、みなさんは次の中でどれか聞いたことがありますか？

1. 長いフルネーム

通称は「パブロ・ピカソ(Pablo Picasso)」または単に「ピカソ(Picasso)」と呼ばれていますが、本当のフルネームはこうでした。Pablo Diego José Francisco de Paula Juan Nepomuceno María de los Remedios Crispiniano de la Santísima Trinidad Ruiz y Picasso―何と全部で 20 語になります！

2. 早熟の天才

ピカソが初めて絵を描いたのはわずか 9 歳のときで、《黄色いピカドール》(1890)という作品でした。そして 13 歳で初の個展を催しています。画家で美術教師でもあったピカソの父親は息子に非凡な才能があることに気づくと、大切にしていた絵描き道具一式をすべて彼に譲ってしまい、自分は生涯二度と絵を描かないと決心したそうです。

3. 《モナ・リザ》の窃盗犯!?

1911 年、ピカソとその友人であるフランスの詩人アポリネールがフランス警察に逮捕されました。パリのルーブル美術館からレオナルド・ダ・ヴィンチの有名な《モナ・リザ》を盗んだという容疑です。何度も尋問を受けた後に二人はようやく釈放されました。盗まれた絵画が出てきたのはそれから 2 年後のことで、真犯人も無事捕まりました。

4. 平和の象徴《ゲルニカ》

ピカソの代表作のひとつが《ゲルニカ》(1937)です(写真 2)。これは彼が制作したもっともサイズの大きな絵画でもあり、高さが 3.49 メートル、幅は 7.77 メートルもあります。これほどのサイズであるにもかかわらず、ピカソはわずか 1 か月で描き上げました。この絵画はスペイン政府のもとで管理され、全世界の反戦論と平和運動の象徴になりました。ピカソの恋人であったドラ・マールが制作過程のすべてを写真に撮って記録しています。マドリードのソフィア王妃美術館に行けば、《ゲルニカ》とドラが撮影した写真の展示を目にすることができます。



写真 2：ピカソ作《ゲルニカ》(1937)

5.　ギネス記録を樹立

ピカソは全時代を通じて最大の多作芸術家としてギネスブックに載っています。彼が活動した 75 年の間に制作した作品数は油絵とデッサンが約 1 万 3500 点、版画とエッチング（銅版画）が 10 万点、挿絵が 3 万 4000 点、彫刻と陶芸が 300 点と見積もられています。

6.　最高価格がついた絵画

史上 3 番目の高値がついた絵画はピカソが描いたもので、《アルジェの女たち》（1955）という作品です。この絵画は 2015 年にニューヨークで 1 億 7940 万ドルで落札されました。なお、ピカソの全作品には 7 億 8800 万ドルの値段がつけられています。日本円に換算すると、およそ122 兆円です！

さて、どの話にも興味をそそられたのではないでしょうか。みなさんがピカソについて他にご存知のことがあれば、いつかお聞きしたいと思っています。

Gisele Fernández Lázaro

（ヒセレ・フェルナンデス・ラサロ／スペイン芸術・演劇）

〈連載〉スペイン巡礼カミノ・デ・サンティアゴとアンダルシアへの旅（2）

2023 年9月 11 日

さて、今日はアルスーアまで行くつもりだ。まだ薄暗く霧が立ち込めているなかを半袖シャツ、半ズボン姿だと少し肌寒い。しかし、あとで日中暑くなることを考えてその服装で出かける。この辺りからこれまでのプリミティボの道のようにほとんど巡礼者を見かけないということはなくなり、前後に必ず数人歩いているという状況が続く。それはその前日に滞在したメリデで「フランスの道」と合流するからである。やはり日中は日が照りつけ温度が高い。牧草地が広がる比較的平坦な道が多い。牛や羊の数に驚く。こんなに近くで牛をみたことはないなと我ながら感心してカメラにおさめる。牛には個人的に愛着がある。この日は平均 20 キロを歩いてきたこれまでの行程を考えると、15 キロと少し短かったので、昼の 2 時くらいにはアルスーアに到着した。どうやら今日はまともな昼食をとることが出来そうだ。偶然同じ宿で日本人と韓国人の女性に出会った。彼女たちといっしょにインフォメーションのお兄さんに教えてもらった地元では人気らしい料理店に出かけた。やはり観光客っぽい人で賑わっている。スペインでは昼のランチのことをメニュー（menú）といい、そのなかには前菜、メイン料理、デザート、飲み物付きが定番である。メニューリストのなかからそれぞれ1品を選んで注文する。メニューについている飲み物の種類はそんなに多くなく、このときも水かワインのセレクトであった。私は迷わずワインを注文。ところで、この旅を始めてから異常に喉が渇くようになった。スペインに来て私は食事前にまずは喉を潤す必要があったため、いつもコーラを別注文した。ところで、午後 14 時をまわっていたのか、メニューに書いている料理の選択肢にはすでにないものがいくつかあった。食後急に睡魔に襲われ、シエスタをとった。今日も日差しが強い。夕刻は同室（男女同室だ）のみんなが私のリサーチに協力してくれた。夜もまたコーラを飲んだ。

9月 12 日

日中はかなり暑かった。かなり体力を消耗したのか、今日は少し体調がダウンぎみ。夕刻早くには目的地であるオペドロウソ（O Pedrouzo）に着いたが、軽く昼食をとって宿屋に入る。受付で言われた番号のベッドに向かうが、誰かの荷物がそこにあった。再び受付に交渉。新しい番号のベッドのまわりにもまた誰かの荷物が。そこで大学生くらいの女の子が 2 人、英語でなにか言い訳をしようと私に話しかける。これはスペイン語なまりだなと察知した私はスペイン語で対応。相手の緊張していた顔色が急に笑顔となり、今度は自分の意思を機関銃のような早口のスペイン語でしゃべってくる。要するに、誰もいなかったので適当に荷物をおいて男子たちは今食事に行っていないので、すみませんということのようだ。友達である女の子たちが私が受付に足を運んでいる姿をみていたのだろうか、申しわけないと思ってしゃべりかけてきたのだ。ほとぼりがさめると、疲れで少し睡魔が襲ってきた。今日もシエスタ（昼寝）を取るか。暑いスペインでは健康管理を考えて昼寝をする。日差しも入ってくるが、すずしいそよ風も入ってくるので心地よい。下の受付のおばさんが気を利かせてくれたのだろう、私のベッドは窓辺のいいところにあった。ところでシエスタといっても、別に寝る必要はない。身体を休めることが目的である。だからソブレメサというのもある。食事の後の午後のひとときのおし

ゃべりだ。よほど疲れていたのだろうか、食欲もさほどないので、その日は夜の街に繰り広げることはなかった。カバンに入っていた残りもののパンで十分だった。ところで最初に同じ宿で出会ったスペイン人男性もイタリア人大学生の 2 人もあれ以降まったく会わなくなかった。みんなもうすでにサンティアゴに到着しているのだろうか。明日はついに巡礼路の最終日である。早く寝ることにしよう。

9 月 13 日

少し早めの出発となる。夏のスペインは日暮れが遅いことから、日の出も遅い。しかし薄明りのなか、これからの気温の上昇を考えると半そで、半ズボンのいつものスタイルで、でも太陽が出てくる9時過ぎくらいまでは少し肌寒い。サンティアゴ・テ・コンポステーラまで 20 キロくらいなので、みんなも早朝から元気に目的地を目指して歩いている。今日は格別、日中は暑い。20 キロの行程が 30 キロにも 40 キロにも感じた。アスファルトの道路が永遠に続いているが、何度も休みながら、そのたびにiBuen camino!と目の前を通り抜けるみんなを励ます。ところで、道中アルゼンチン人とスペイン人のカップルに声をかけられ、あなたの荷物は重そうですねと言われた。そうか。重さ 13 キロを担いで 100 キロを歩いている人なんかいないかも。おかげで私の足腰は鍛えられた。



写真 1：モンテ・デ・ゴソにある日本・スペイン交流 400 年碑

途中、スペイン国営放送局 TVEのガリシア支局の前を通った。目指すはモンテ・デ・ゴソ、歓喜の丘である。ここまでくるとサンティアゴまで5キロほどである。小高い緑の丘からサンティアゴ・デ・コンポステーラの聖堂もかすかに向こうに見える（写真 1）。巡礼の道を歩いてきた巡礼者達はここで初めて聖地の姿を目にする。まずは腹ごしらえだ。ランチを終えて歩き出す。やがてサンティアゴ・デ・コンポステーラの町に入った。でも聖堂のある旧市街にまではまっすぐなこの大通りをひたすら歩き続けなければならない。旧市街の石畳に入ってきた。でもまだ聖堂は見えない。少し憔悴しきった顔をしているのが自分でもわかる。でも泣いても笑ってもこの旅は今日までだ。だって明日はアンダルシア行きの飛行機を予約しているので今日で旅を終わらさなければならない。最後まで無事に行けることはわかっているのだが、なかなかゴールに着かないことに苛立つ。でも夕刻、遂に目に前にあの大聖堂をみた。大聖堂前の広場には大勢いの巡礼者や観光客がたむろしていた（写真 2）。道中で知り合ったテキサス・オースティン在住のメキシコ人夫妻、アルスーアのアルベルゲ（巡礼宿）で出会った日本人女性と韓国女性。イギリス人のエリザベスさん。みんなで目標達成を喜び合った。それもつかの間、6時までに巡礼証明書をもらいに行った。残念ながらサンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂にはその日は入れなかったが、翌日早朝のミサに参列した。飛行機の搭乗券をもっていなければもう一日でもサンティアゴに残っていたかもしれない。この中世の面影を残す旧市街地には、歴史あるサンティアゴ・デ・コンポステーラ大学のキャンパスの一部がある。この日の夜は名残惜しいプルポ（タコ）料理を最後に満喫したことは言うまでもない。 ［次号に続く］



写真 2：サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂

牛島　万（うしじま　たかし／歴史学）

CRUCIGRAMA 11

1 マスに大文字 1 字を記入してください。CH, LL, RR は 2 文字扱いです。アクセントつきの母音(Á, É, Í, Ó, Ú)とアクセントなしの母音は別の文字とします。二重線の A～G を並べ替えてできたスペイン語単語を当ててください(答えは次号)。

(出題／岡本信照)

1	2		3		4	5
6		■	F	■	7	
■	8	9			E	
10		G		■	11	
12 D			■	13 A	■	C
	■	14	15		16	■
17		■	18		B	

タテのかぎ (VERTICAL)

1. Hablamos ____ español.「スペイン語で話そう。」
2.「椅子」。
3.「爪」の複数形。
4.「忠実な、誠実な」という意味の形容詞。
5.「ロバ」の複数形。俗語で「愚か者」の意味にもなる。
9. abrigo de ____とは「ウール(羊毛)のコート」のこと。
10. ¿Tú ____ el perro a ese árbol?「君は犬をその木につないでおくの？」:「結ぶ、縛る」の現在形 2 人称単数。
13.Estoy aquí un ___ de días.「私はここに 2･3 日いる。」
15. ¿____ esperas?「私を待っててくれる？」
16. ¿Cómo ____ llama usted?「お名前は？」

ヨコのかぎ (HORIZONTAL)

1. Los niños van a la ____.「子供たちは学校へ行く。」
6. No tengo ____ idea.「私にはさっぱり分からない。」
7.¿Cuál ____ tu afición?「君の趣味は何？」
8. ____ a la puerta.「誰かがドアをノックしている。」
10.「翼」の複数形。
11. ¿Lees este libro? – Sí, ____ leo.
12. Eso no es ____ difícil.「それはそんなに難しくない。」
14. Tú ____ a los gatos, ¿no?「君は猫を愛しているね。」
17. Aquí está usted en ____ casa.「どうぞごゆっくり。」
18. ¿De dónde ____ tú? – Soy de Japón.

A～G を並べると?

A	B	C	D	E	F	G

CRUCIGRAMA 10 (第 10 号)の解答

M	A	P	A	S	■	P
U	■	L	■	U	N	A
C	L	A	V	E	■	Í
H	A	Y	■	L	E	S
O	R	A	L	E	S	■
■	G	■	E	■	T	E
C	A	B	E	Z	A	S

A～H の答え： PARAGUAY「パラグアイ」

―1 頁の世界遺産クイズの答え―

(A) ③　(B) ①　(C) ②　(D) ④

今回の記事執筆者(掲載順)

ユイス・バユス・カンパ(京都外国語大学教授)

ダニエル・アリエタ(京都外国語大学准教授)

ヒセレ・フェルナンデス・ラサロ(京都外国語大学准教授)

牛島万(京都外国語大学教授)

スペイン・ラテンアメリカ通信　第１１号

2024 年 5 月 25 日発行

発行者：京都外国語大学外国語学部スペイン語学科

〒615-8558　京都市右京区西院笠目町 6

URL. https://www.kufs.ac.jp

E-mail. s_okamot@kufs.ac.jp

京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies